

【授業のポイント】

・体育に苦手意識を持つ児童も役割を持たせ、楽しく運動できるようにするため、異学年、少人数で行うゲームを設定する。

・一人一人の個性を認め、チームの特徴に応じた作戦を練ることができるようにするため、ICTを活用し、話し合いを重ねる。

【教材(単元)の内容が身に付いた子どもの姿】

自分たちの課題を見つけ出し、仲間の考えを認め、工夫し続ける姿

【効果的なICT活用】

ICTを活用して、共通の動画を見て話し合える場を作り、いろいろな角度から自他の動きを客観的に捉え、ボール操作やボールを持たないときの動きを身に付け、ゲームを楽しめるようにする。



DO (授業実践)

課題の設定

単元計画に沿ったためあての共有映像を用いて前時の振り返りから課題や改善点を共有し、本時で身に付けたい力につなげる。
※映像は電子黒板に映す。

チームのためあての確認

前時の授業末に立てためあてや課題となった動きを実演したり、映像を見たりしながら確認する。

ウォームアップゲーム

チームで立てためあてに沿ったメニュー(キャッチ・パス・位置取り)を行う。



課題解決

チームで練った作戦を用いてゲームを行う
自他の動きをカメラ機能で撮影し合う。
※コート外の児童が撮影者となり、試合のローテーションと共に交代する。

チームでの学び合い

・自分たちのねらいに迫る動きを重点的に評価し合う。
スプライザチームを用いてポイントとなった場面にコメントし、動画を通して自分の思ったことを表現し合う。

振り返り

次時の目標を立てる

・動画を通してゲーム中の動きを振り返り、次時の計画と見合わせながらためあてを設定する。
※動画はいつでも見返せるようチーム内で共有し、どこでも見るができる環境を整える。



【児童の振り返りより】

- ・今日のネット運動で、これまでで学んだことを活かすことが少し出来ました。ボールパスなどはほぼ出来るようになったけれど、ボールキャッチやサーブを打つことがあまりできませんでした。掛け声をすれば、誰にボールをパスするのか、誰が敵から来たボールを取るのかなど、もっとうまく出来たかなと思います。
- ・この単元でチームワークの大切さというのは、チーム一人一人の個人の武器を分析して、勝てるようにしたり、仲を深めたりすることだと学びました。
- ・さらに良くするためには、どんなときも丁度いい高さのボールを投げることや、相手がいなくてボールを打つことなどを、気をつければ良いと思うので、次はその点も考えて、練習をしてみようと思います。
- ・僕は、5年生と合同でネット運動をして、改めて、声掛け、協力の大切さが分かりました。バレーをして誰がボールを取るか、どこに移動するかなどを考えているうちに、自然と、声掛けが必要になりました。そして、声掛けをすることで、お互いのアドバイスを聞き入れて協力する力も大切だと思いました。

Check (分析・評価)

〈全体協議～ICTの活用が、児童の学びに効果的なものとなっていたか～〉

アプリの活用で、子どもたちは動画を見ながら、そこにコメントを記入することができたので、その後の話し合いでどこのこと言っているのか共有がしやすかったのではないかな。

時間の配分を示すのも良かった。タグ付け(動画に気付きをコメントする)→話し合い→グループで必要な練習を考えて、という流れで子どもたちが見通しをもって動いていたよ。

動画を共有することで、良い動きのイメージ化を図ることはできたけど、技能面の課題は残るよね。

子どもたちは、動画で自分たちの動きを確認し共有しながら、次の練習や作戦について話し合っていたね。

見える化を図ることで気付くだけでなく、共有することができ振り返りにもつながったよね。

そうそう。でも、そこは教師の出番。「『高さ』や『スピード』ができただけでは、うまくいかないよね?どうする?」などと発問で深く切り込んでいかないと・・・技能の習得も必要かな。

Action (改善・次の授業へつなぐ)

- 授業でICTの活用を図るには、
- ①どの場面で使うと、思考が深まるのか
 - ②学びを深めるために、教師がどこで、どんな発問をするか明確に持つ必要がある!

